

|姉妹クラブについて

姉妹クラブについて



国際奉仕委員長
小牧 徹志

福岡北ロータリークラブの創立30周年記念にあたり担当させて頂いている姉妹クラブについてご紹介致します。

私が金納前総合メディカル社長にお誘い頂き当クラブに入会してから、やがて10年が経過しようとしています。入会後、姉妹クラブ委員長であった村上泰之元会長に「台湾に行きませんか?」とお声を掛けて頂いた事がご縁で生まれて初めてご当地を訪ねることになり、高雄中興RCの皆様の熱烈的歓迎や地元の人々の元気さや優しさに触れて、すっかり台湾高雄のファンになってしまいました。後のページでご紹介しているアルバムで小林、川久保両会員の間に写つておられる故・堤美芳さんには昼も夜もご一緒に頂きました。多彩な趣味をお持ちでいつもにこやかな笑顔の万年青年でした。30周年記念のお祝いを前にお亡くなりなった事、本当に残念でなりません。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

村上泰之委員長、松崎裕之委員、そして重鎮の山田浩之会員と共に、現在でもこうして姉妹クラブの仕事をさせて頂き、大変、光栄に思っております。

特に、高雄中興RC前会長の陳信寰氏は親日家の多い高雄でも大の親日家で、自ら、小学生の頃から日本古来の剣道を学び、宮本武蔵二天下一流の第十一代宗家、社団法人高雄市剣道文化促進会理事長、剣道教士八段という筋金入りの侍であります。

我々が高雄を訪問した際にも、RC会員や家族総出で大歓迎して頂き、311東日本大震災後には直ちに義援金をRC及び高雄での国際社会人剣道大会で募金して送金して下さいました。日本統治時代に建造された武徳館を道場として大切に守り、道場内には震災の写真を掲げて日本への応援をしてくれている様には大変感動させられました。そして、今年もまた彼の武徳殿で日本支援の剣道大会が開催されております。実に感謝に堪えません。

2010年秋の訪問時には、戦前に八田與一技師が苦労に苦労を重ねて完成させたという「烏山頭ダム」を訪れましたが、雨の中を地元の人々と会うと、“JAPAN IS GREAT!”と大きな声を掛けてくれたのが印象的であります。戦前に台湾の近代化に骨を折って、水利を開発し、農業の飛躍的発展や衛生改善による病の激減に貢献した日本人を賛えて、我々を励ましていました。

次のページに姉妹クラブの歴史をご紹介しましたが、当時の台湾からの米山獎学生のご縁で高雄中興RCとの姉妹クラブが締結されて15年経過しました。その間、7回ほど訪問し、先方からも数回来訪がありました。当初はやや儀礼的な面もありましたが、交流を重ねるうちに、お互いに尊敬し合い親しみを感じるようになり、今では公私にわたり交流が深まってまいりました。戴明宗前社長ご夫妻も大変な親日家で当クラブ会員の皆様とも温かなお付き合いをさせて頂いております。昨年は高雄中興RCの20周年記念式典に訪問し周育丞社長(会長)始め中興社の皆様にお世話になりました。そして、本年は当クラブの創立30周年を迎え、張榮輝社長(会長)を始め約30名の方々がお祝いに来訪され懇親を深めます。今後とも、益々お互いが切磋琢磨して相互理解し、国際親善を深めて、親しく交流したいと熱望しております。

最後に「感謝台湾高雄中興扶輪社!」の言葉で締め括りたいと思います。